

市区町村名	愛媛県宇和島市	担当部署	病院局医事課
		電話番号	(0895) 25-1111

## 1 取組事例名

ICT を活用した地域医療連携「きさいやネット」の取り組み

## 2 取組期間

平成 28 年 5 月から運用開始（取り組み中）

## 3 取組概要

「きさいやネット」とは、市立宇和島病院の電子カルテ上の診療情報（医師の記録、処方、検査、画像データ等）を、登録した利用医（病院や診療所の医師）が、自身の診察室等のパソコンを使って閲覧できるネットワークシステムであり、情報共有の迅速化と地域医療の質の向上を目的としている。現在、南予地域を中心とする医療機関が参加しアクセス件数も順調に伸びている。また、今後は調剤薬局や訪問看護ステーションにもネットワークを拡充していく予定となっている。

## 4 背景・目的

当院がある南予地域は、少子高齢化の進展、生活習慣病の増大、医療従事者の不足、急性期病床の一極集中、交通インフラの未整備など多くの課題に直面している。このような背景のもと、地域の基幹病院である当院では、医療機関の機能分化と連携による「地域完結型医療」への転換を促進するとともに、ICTを活用した医療情報共有と限られた医療資源を効率的に運用することを目指し、平成 27 年 5 月から「きさいやネット」の運用を開始した。

※「地域完結型医療」とは、病院や診療所等がその特長を活かしながら役割を分担し、地域の医療機関全体で1つの病院のような機能を持ち、連携しながら切れ目の無い医療を提供していこうというもの

## 5 取組の具体的内容

「きさいや」とは宇和島地方の方言で「お越しください」といった歓迎の意味があり、南予地区（宇和島市・西予市・鬼北町・松野町・愛南町）の各医師会を通じて参加を呼びかけ、現在 36 施設がネットワークに加入している。「きさいやネット」に登録した利用医は、インターネット（VPN：セキュリティが担保された専用回線）を介し、患者の同意のもと当院の診療情報をリアルタイムに閲覧することができる。また、CT（コンピューター断層撮影）やMRI（磁気共鳴画像装置）などの高度医療機器の検査結果も共有することができ、限られた地域医療資源の効率的な利用につながっている。その他にもこのシステムを利用して、脳卒中患者の地域連携パス（当院と地域医療機関とが診療計画書を共有し、継続して治療にあたるためのツール）を電子的に送受信することが可能となり利便性が大幅に向上した。

## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

ICT を活用した地域医療連携ネットワークシステムは、平成 21 年度に設置された地域医療再生基金を契機に全国 200 カ所以上で構築されたが、その約 9 割は利用率が低く失敗事例と言われている。こうした中、当院では同じ轍を踏まないように、ネットワークの構築にあたって以下の 4 つのポイントを掲げ、順調に参加医療機関数及び登録患者数を伸ばしてきた。

### ①低いハードル

ネットワークへの加入するにはインターネット環境を整備すれば無料で参加できる仕組みとし、地域医療機関が負担なく参加できるものとした。

### ②充実したサポート体制

ICTに不慣れな高齢医師も多いため、当院スタッフがパソコンのセットアップからアフターフォローまで手厚く行い、必要に応じて出張説明会（実際に患者同意書を取得するスタッフ等向けの説明会）を開催した。

### ③スモールスタート

初期の連携先を既に紹介・逆紹介の実績のある医療機関に限定した。これは、相互に情報共有のメリットを実感する中で、利用医からの口コミによるネットワークの拡充に期待した。

### ④多職種への拡大の可能性

国が進める「地域包括ケアシステム」の構築を見据え、調剤薬局・訪問看護・行政・介護事業所等への拡張性の高いシステムを導入した。

## 7 取組の効果・費用

現在の参加医療機関は36施設、登録患者数は2,051人、利用医からのアクセス件数は10,692件に達している。地域の利用医からは、「紹介・逆紹介した患者の診療データを迅速、詳細に把握することができ、適切な診断や詳細な病状説明が可能になった。」と高い評価を得ている。患者にとっても投薬や検査の重複を防ぐことができ医療費負担の軽減になるほか、かかりつけ医がシステムにアクセスし、自身の身体の状態を見られることで大きな安心感につながっている。

また、当システムの導入費用については「地域医療介護総合確保基金」を活用し、2分の1の補助を受けている。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

今後に向けては将来のリプレースコストの確保のほか、ネットワークがさらに拡充した際のランニングコストの負担のあり方といった課題がある。また、公開コンテンツの拡充のほか、介護分野へネットワークを拡充した際のエンドユーザーに対する情報リテラシー（活用する能力）や情報セキュリティの教育といった課題も残っている。今後は、このシステムに参加している利用医などに呼びかけ「きさいやネット連絡協議会（仮称）」を設置し、これらの課題に対する検討を進めていく。

## 9 今後の予定・構想

平成28年度中に、調剤薬局や訪問看護ステーションにも参加を呼びかけネットワークの拡充を図り、将来の地域包括ケアシステム構築の一翼を担う情報ネットワークシステムへとブラッシュアップしていく。（既に薬剤師会や訪問看護連絡会とは協議を進めている）

また、現在は当院の診療情報を地域医療機関が閲覧するといった一方向（1対N）のネットワーク構成となっているが、次フェーズでは参加する施設間で相互に情報共有が可能となる双方向性をもったネットワーク（N対N）へ発展させていく。

## 10 他団体へのアドバイス

当市が抱える地域医療の課題は、県内の多くの地域医療圏が抱える課題と共通する。こうした中、自治体病院が中心となり取り組んできた「きさいやネット」は、「地域連携」や「情報共有」を推進していくための一つのツールにすぎないが、さまざまな局面において地域医療の課題解決や質の向上に寄与している。

## 11 取組について記載したホームページ

<http://www.uwajima-mh.jp/07renkei/index04.html>